



● 第 4 回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベントを開催

11月23日 水曜日午前10時から午後3時まで、天久保キャンパス体育館やコミュニケーションホールにおいて、「第4回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベントー障がいのある人、スポーツ・遊びに参加しようー」が、特別ゲストに長野、トリノ両パラリンピックバイアスロン競技金メダリスト井口深雪さん（筑波技術短期大学鍼灸学科平成6年度卒、名誉卒業生）を迎えて開催されました。

実施されたのは、ピームライフル、フリークライミング、フライングディスク、自由遊び（レクリエーション）、ボッチャ、スポーツ吹矢及び卓球・音卓球の7種目でした。

三大学連携で実施するのは4回目ですが本学開催は5回目になる本イベントは、回を重ねるにつれ認知度が高まったせいかな年々多くの方々が訪れるようになり、今回はスタッフを含め約160名が参加しました。また今回、地域の障害者福祉施設や障害者団体の代表の方々が、本イベントに関心を持って見学、参加、相談にお越しいただいたのが今までにないことでした。障がいのある人たちが地域でいかに有意義な時間を過ごすかが、喫緊の課題になっていることを表すものではないかと思われます。



音を便りに標的を狙う

なお、12月4日に茨城県立医療大学で、12月10日に筑波大学でイベントが開催されました。3回のイベントの延べ参加者数は609名でした。

（障害者高等教育研究支援センター 及川 力）

● 筑波技術大学(天久保キャンパス)見学ツアーを開催

11月5日土曜日に、障害者高等教育研究支援センターに事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）では、翌日に開催する「第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」の関連企画として、「筑波技術大学見学ツアー」を実施しました。これは、今回シンポジウムがつくば市で開催されることに合せ、多く

の聴覚障害学生支援関係者に本学の取り組みを知ってもらおうと企画したもので、大学教職員・学生・地域の情報保障者など全国から幅広い層の方々より申込があり、76名が参加しました。

● 見学の様子

当日は、及川力教授より本学の概要説明を行ったあと、大杉豊准教授、佐藤正幸教授、皆川洋喜教授による模擬授業と、本学の教育施設の見学ツアーを用意し、参加者はそれぞれ希望する授業や見学に参加しました。見学の際には本学学生が誘導や説明を担当するなど、各所で活躍してくれました。

模擬授業では、手話による直接コミュニケーションの他、視覚情報を提示する機器を駆使しながら指導する様子を参加者が体感しました。

また教育施設の見学コースでは、伊藤三千代准教授による総合デザイン学科科目「工芸演習」および谷貴幸准教授による産業情報学科機械工学領域科目「CAD・CAE演習」の授業見学も盛り込み、本学学生への実際の指導の様子は、参加者の高い関心を得ていました。

（障害者高等教育研究支援センター 白澤 麻弓）



大杉准教授による模擬授業の様子

● 第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを開催

11月6日 日曜日に、つくば国際会議場において、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）が主催する「第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」が開催されました。本学関係者を含め約340名が参加し、過去最大の規模での盛大な会となりました。

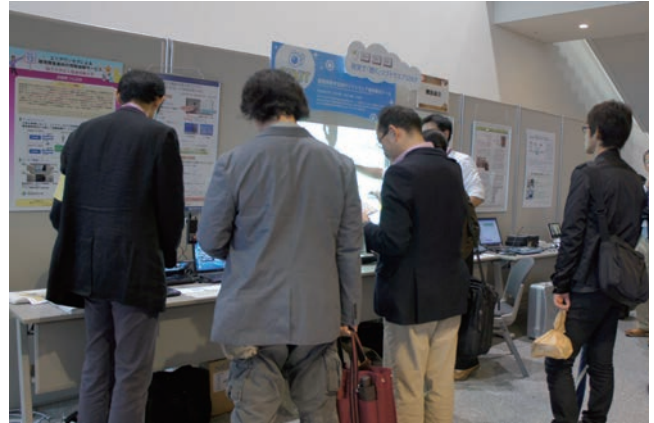
● 分科会

午前中の分科会では、4つの企画を行いました。各テーマは、(1) 本学での教育実践を一般大学での支援に役立ててもらおうとの企画、基礎講座「4年間を通して学生を支えるために－筑波技術大学の実践から－」、(2) 聴覚障害学生のニーズに応じた支援のあり方を探る「聴覚障害学生の求める通訳とは？－よりよい手話通訳・パソコンノートテイクのために－」、(3) コーディネーターと参加者が一緒になって支援プラン作りに取り組むワークショップ「体験しよう！コーディネーターの業務－支援プラン作りに挑戦－」、(4) 支援の質への考え方や具体的な組織づくりについて事例報告をもとに検討した「支援の質を高める組織的実践－事例から学ぶ様々な取り組み－」の4つで、いずれの企画でも充実した意見交換がなされました。特に本学の教育実践を報告した基礎講座では、卒業後を見据えた教育実践が報告されたことに関し、一般大学の関係者からも具体的な質問が続くなど熱心な議論が行われました。

● ランチセッションでの情報交換

ランチセッションでは、2時間に渡って様々な展示発表が行われました。このうち、今年で4回目の開催となる「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」では、14の大学・団体が日頃の取り組みを紹介しました。回を重ねるごとに応募大学の数が増え、発表内容や展示資料も充実したものとなってきており、今回も多く参加者が展示会場に集まって、各パネルの前で熱心に情報交換する様子が見られました。参加者の投票によって選ばれた特に注目度の高い取り組みは、全体会の終盤で発表され、表彰式に登壇した学生や支援室職員には会場から激励の拍手が送られました。

本学からは大学紹介パネルの展示の他、機器展示およびデモンストレーションとして、障害者高等教育研究支援センター佐藤正幸教授による補聴システム、三好茂樹准教授によるモバイル型遠隔情報保障支援システム、宮城愛美講師及び金堀利洋准教授による視覚障害学生支援機器、産業技術学部鈴木拓弥講師、保健科学部小林真准教授によるSZKIT、若月大輔准教授によるプロジェクトを用いた情報保障支援システムの紹介が行われました。いずれも注目を集め、多くの参加者が質問に訪れ、デモンストレーションに見入っていました。



ランチセッションでの機器展示の様子

● 全体会

午後の全体会では、文部科学省高等教育局学生・留学生課厚生係・就職指導係長、黒部敦之氏より、障害学生支援の現状と今後の展望について特別講演をいただきました。また、「震災時に求められる聴覚障害学生支援のあり方とは？－東日本大震災後の現状と課題から－」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、被災地での聴覚障害学生支援活動の経過やそこから浮かびあがった課題についての報告や、PEPNet-Japanが行っている遠隔情報保障支援システムを活用した大学間での情報保障支援活動についての報告がなされました。将来的な課題として、障害学生支援と連携した防災システムの在り方について議論が行われました。



全体会の様子

本シンポジウムは回を重ねるごとに参加者数が増え、障害学生支援の広がりを実感するとともに、グループディスカッションや実践事例コンテストなど参加型企画への期待の高まりも感じられます。今後も全国的な聴覚障害学生支援向上のために、情報を発信し、また、交流を重ねていきたいと思っております。

(障害者高等教育研究支援センター 白澤 麻弓)

● 文部科学省「情報ひろば」ラウンジ企画イベントを実施

12月7日 水曜日及び8日 木曜日に、文部科学省「情報ひろば」ラウンジにおいて筑波技術大学と文部科学省の共同企画イベントを開催しました。

今回の企画イベントは、本学における聴覚・視覚障害者教育に関する取組を広く国民にお知らせすることを目的に12月3日から9日までの障害者週間に合わせて行いました。

12月7日の企画イベントは「重度視覚障害者の学習環境の過去・現在・未来」をテーマに、これまでの視覚障害者教育の経験をもとに、重度視覚障害者の学習環境について点字学習資料の製作に関することを紹介しました。イベントでは、点字タイプライタなどを使った過去の点訳方法からパソコンを使った現在の点訳方法、特に点図（点字で表現する図）を製作するためのソフトウェア「エーデル」を紹介し、参加者が「エーデル」を使い点図を作成する体験

も行われ、たいへん好評でした。

12月8日の企画イベントは「震災下の聴覚障害学生を支えた支援システム～モバイル型遠隔情報システムの概要と東北地区大学支援プロジェクト～」をテーマに、3月11日に発生した東日本大震災の影響で、東北地区の大学に学ぶ聴覚障害学生の情報保障、特に授業におけるノートテイクなどを行ってくれる支援学生を確保することが困難な状況にあった中、本学が中心となり全国の大学と連携した遠隔から行う情報保障の支援プロジェクトを紹介しました。また、イベントでは「モバイル型遠隔情報保障システム」のデモンストレーションを行い、参加者による同システムを使ったパソコンノートテイクの体験もあり、たいへん好評でした。

（総務課 佐久山 晃康）



12月7日の企画イベント「重度視覚障害者の学習環境の過去・現在・未来」の様子



12月8日の企画イベント「震災下の聴覚障害学生を支えた支援システム」の様子

● 本学学生がつくばマラソンで活躍

11月27日 日曜日に開催された「エコシティー第31回つくばマラソン」のマラソンの部（42.195km）に、本学産業情報学科2年次の森川真椰さんが出場し、4時間07分04秒で完走し女子の部で711位となりました。女子の完走者は1755人でした。なお、森川さんは昨年が続いての完走で、昨年より約37分タイムを縮めました。



マラソンの部（42.195km）に出場した森川真椰さん

また、10kmの部に産業情報学科3年次の山口弘晃君が出場し、42分15秒で男子の部の163位となりました。完走者は1703人でした。

2人の更なる活躍が期待されます。

なお、以下は森川さんの感想です。

「1度目のつくばマラソン（2010年）では人に何度か接触して転んだりしましたが、何とか完走でき自信を持ちました。その経験から今年はタイムを縮めることと、人にぶつからない工夫をしようと意識しました。その結果、今回（2011年）は人に接触せず転ばず完走でき、タイムを約40分縮めることができました。

私はもともと走るのが得意ではなかったのですが、中学部の頃、陸上部の先生から走り方を教えてもらい、いつの間にか「好き」になりました。今は「走ること」はとても楽しいです。これからもハーフ、フルと色々なマラソンに参加して、失敗をしながらも安全な走り方を工夫しながらタイムを縮める挑戦をしたいと思います。」

（障害者高等教育研究支援センター 及川 力）

● 本学学生や卒業生が柔道で活躍

11月27日 日曜日に東京の講道館で開催された第26回全日本視覚障害者柔道大会には保健科学部の学生5名と卒業生1名が出場し、金、銀、銅メダルを獲得するなど好成績をおさめました。在学学生や卒業生が2012年のロンドンパラリンピック、あるいは4年後のリオデジャネイロパラリンピックに出場する可能性が非常に高く、活躍が期待されています。

柔道はお互いに組んでできるスポーツなので、視覚障害者も晴眼者とはほとんど同じように行うことができます。

大会では障害の程度による区分は無く、男女別に体重階級制で行われます。一般の柔道のルールと違うのは、以下の点です。

- ・選手が組んだ状態から試合が始まる。(組み手争いが無い。)
- ・試合中に選手どうしが離れた場合は審判が「やめ」と声をかけて、中央に戻って再び組んでから再開される。



メダルを胸にした選手や応援団

- ・場外の反則が基本的に無い。

(障害者高等教育研究支援センター 香田 泰子)

● つくば科学フェスティバル2011へ参加

11月12日 土曜日及び13日日曜日に、つくばカピオにおいてつくば市・つくば市教育委員会主催の「つくば科学フェスティバル2011」が開催されました。

産業技術学部産業情報学科の設計・加工システムコースと機械システムコースの学生諸君と教員は、筑波学院大学と共同で、「やってみよう！マルチメディア体験」というテーマで出展しました。期間中、我々のブースにも多くの方に来ていただき、紙ヒコーキとカレンダーの作成、サーモグラフィーの実演、ロボットプログラミングなどを楽しんでいただきました。

(産業技術学部 丹野 格)



会場の様子

● ペーパーカーレース開催、中国との教育連携 10周年

12月10日 土曜日に、筑波学院大学を会場に、中国の姉妹校長春大学・特殊教育学院とテレビ会議システムで結んだ大学間対抗国際ペーパーカーレースを開催しました。このレースは、本学と筑波学院大学の学生がそれぞれの授業の中で学んでいるCAD(キャド:コンピュータの支援による設計製図)を通し、短大時代の初期から大学間の教育交流として毎年続けており今回で19回目、中国の参加は10回目で記念すべき大会となりました。

製作の条件に従い同じ材料を用いて各自のコンセプトで設計し、CADで描きケント紙に出力したものを切り抜き組み立て、モータと電池を載せてプーリーに輪ゴムを掛けた動力伝達により走らせる小さな紙の車で、スピードとデザインを競い合うものです。日中三大学の学長の応援のもと、中国からは本学と筑波学院大学の合わせた参加台数より2倍近い30台の車が参加して、各自の車を紹介し相手



中国チーム、長春大学の皆さんとペーパーカー

国のデザイン賞を選び合うなど楽しい交流となりました。

(産業技術学部 荒木 勉)